

平成 24 年 1 月号

新年明けましておめでとうございます。大分協和病院に赴任して初めての正月を穏やかに迎えることができました。今では業務にも慣れて、日々楽しく仕事をさせていただいております。これからもよろしく願いいたします。

かかりつけ医の大切さ

最近、ちょっと気になることがあります。私の外来に初めてお越しいただいた患者さんの中に、定期的に受診している病院・医院があるにもかかわらず、その担当医師に全く相談をされていない方が多くいらっしゃるのです。

もちろん、担当している医者が気むずかしくてなかなか言い出せない、他の病院にかかることが申し訳なくて言えない、といったような仕方ない事情も時にはあるかとは思いますが、しかし、ことは健康（時には命）にかかわる問題ですので、この機会にかかりつけ医の大切さについて考えてみましょう。

かかりつけ医の重要な役割は、定期的にお薬を処方することだけではありません。受診された患者さん一人ひとりが持つ病気の特徴や、検査データなどを平素よりきちんと把握し、症状に変化が生じた場合には、ただちに的確なアドバイスや治療を行なう、というとても大切な役割もあるのです。ですから、「〇〇病院で長く治療をしているけれども、少しも良くなるので担当医にだまってこちらに来ました」と言われても私はとても困ってしまうのです。

私がまず何よりも知りたい内容は以下の点です。「今までかかりつけの病院でどのような検査を行い、その結果はどうであったのか。」「担当医師はどのような考えでどのようなお薬を処方したのか。」「症状が良くなることについて、どのような説明をしたのか。」それらを私が全く理解せずに検査や治療を行なうことはあってはいけません。

ずっと以前、耳鳴りがなかなか治らなくて、高血圧で長くかかっている医院があるにもかかわらず、その医者に何も相談をしないまま、何と五つの病院（！）を受診していた方がいらっしゃいました。その結果、六人の医者がお互いに何の連絡を取り合わないまま、その方に同じような検査が行なわれ、同じようなお薬が処方されていたのです。（似たような効用の胃薬が三種類処方されていたように記憶しています。）これはとんでもないことですね。

基本的にかかりつけ医は担当患者さんのすべてを把握していなければなりません。ですから、気になる症状があればどんなことでもかかりつけ医に相談し、検査・治療、あるいは他院（専門医）への紹介を速やかに行なってもらうことが肝要です。とにかくかかりつけ医には遠慮せず何でも相談なさることをお勧めしたいと思います。